

発見！！

さがみはら

はしもとけいばじょう まき
橋本競馬場の巻



● はじめに

いまからおよそ90年前の大正時代、橋本に競馬場があったのを
知っていますか？わずか3年ほどの間でしたが、とてもにぎわった
そうです。

今回は橋本競馬場について調べてみました。

● 日本の競馬のはじまり

競馬が今のような形になる前は、村のお祭りや農作業が少なくなった時期、荒地を簡単に整備して馬場を作り、近くの村人が飼っている農耕馬たちを競わせる草競馬（奉納競馬）がふつうでした。これらは「走馬」「競馬」などと呼ばれていました。

馬場は市内でも、現在の緑区久保沢の相模丘中学校のグラウンドや、小倉八幡神社の裏、中沢の普門寺近く、根小屋の雲居寺前、中央区にある氷川神社の近くや、淵野辺5丁目の横浜線沿い、陽光台1丁目の付近でもありました。場所によっては昭和の初め頃まで行われていたそうです。

今のような近代競馬が日本で初めて開かれたのは、幕末（1850～60年代）に設けられた横浜の外国人居留地の近くでしたが、やがて大きな馬場と観客席のある競馬場が根岸（中区根岸台～蓑沢）につくられました。この横浜競馬場（根岸競馬場）は、当初は外国人のレジャーのために、外国人会員とその家族が楽しんでいましたが、やがて日本人も加わって、昭和17（1942）年まで開催されていました。

太平洋戦争中の昭和17（1943）年、軍事上の理由で、当時の海軍省が競馬場の施設を買い上げました。その移転計画が、現在の相模大野駅の南口側付近（南区相模大野7～9丁目・上鶴間4～7丁目）にありましたが、実現しないまま終戦を迎え、幻に終わってしまいました。



● 橋本競馬場

明治時代に日清・日露戦争（1894～1895・1904～1905年）が起こり、たくさんの人や武器などを運ぶために、多くの馬が集められましたが、軍用馬として育てられていないものが多かったため、外国産の馬との差が問題となりました。

そこで、政府では「馬政局」をつくり、良い馬を増やすための法律や施設を整えたり、各地に競馬場をつくることも勧めました。

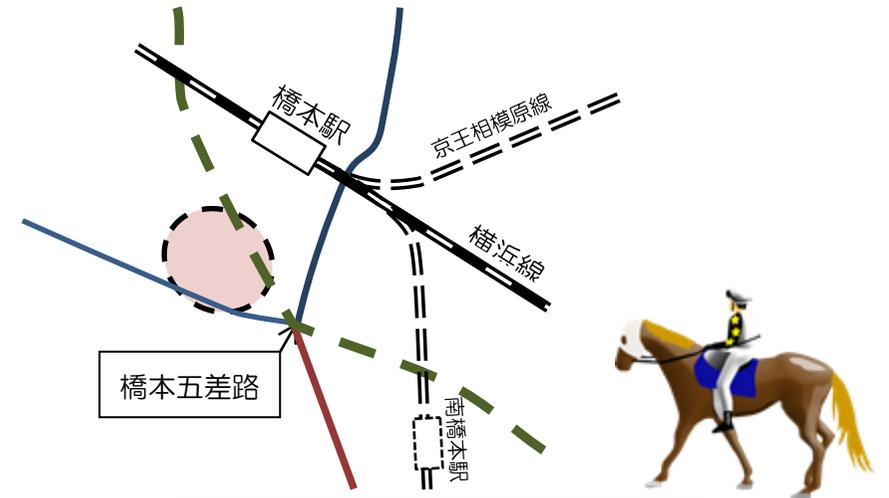
神奈川県内でも、秦野・厚木・小田原など数か所に競馬場がつけられました。

橋本でも設置の計画がもちあがり、競馬の組合を作って資金を集め、現在の橋本五差路の西側（西橋本付近＝右図参照）の畑を整地して競馬場をつくり、大正12（1923）年5月5日に第一回のレースが開かれました。

競馬場周辺には自隠し用の幕や筵が張られ、お客さんは入場券を買って場内に入ります。会場の整理や案内は、村の青年団などが手伝いました。勝馬投票券（馬券）は一枚50銭で販売され、たくさんの売り上げがありました。勝った馬には、のぼり旗やバケツなどが賞品として贈られました。

遠くからも大勢の人が集まるので、橋本駅付近の商店は競馬場の近くで出店を開いて弁当などを売り、開催日が近づくと、近くの農家や馬車屋などに出場馬や馬主や騎手が泊まるなどして、とてもにぎやかでした。

しかし大正15（1926）年、法律の改正により、神奈川県内の競馬場の数が制限されると、藤沢競馬場に吸収合併され、昭和の初め頃には元の畑に戻されました。



◆ 地名の「馬」

緑区西側の旧藤野町の牧野地区一帯と隣町の相模湖町千木良は、千年以上前に天皇の命令でつくられた牧場があったとされ、良い馬の産地だったそうです。

そのため「牧馬」「伏馬田」「赤馬」「柳馬場」など、馬に関係した地名がたくさん残っています。

また、旧市内には「うま坂」という地名が9カ所もあります。いずれの場所も、馬にまつわる話が伝えられているそうです。

● みえるかな？「赤馬」と「白馬」

11月頃、内郷小学校（緑区寸沢嵐）付近からみる大洞山の中腹には、「赤馬」が現れます。スギやヒノキなどの常緑樹の中に、色づいた広葉樹が赤い馬の形になるそうです。また冬の雪が降る時期、市内から丹沢の山を眺めると、「鬼ヶ岩ノ頭」の山肌に白い馬の形（雪形）が見えます。

寒い季節になったら、皆さんも探してみませんか？

〈参考にした本〉

・『橋本の昔話』

加藤 重夫／編著 ぎょうせい 1985 (K1-20)

・『相沢日記 大正編』

相沢 菊太郎／著 相沢 栄久／編 1972 (K1-28)

・『ようこうだい』 相模原市立陽光台小学校創立十周年記念事業実行委員会／編

相模原市立陽光台小学校 1985 (K1-37/空・茶)

・『せいしん』 清新小学校創立30周年を祝う会記念誌編集室／編

清新小学校創立30周年を祝う会記念誌編集室 1984 (K1-37/空・茶)

・『相模原郷土史』

平井 正治／著 平井正治 1965 (K1-21)

・『城山町の地名 改訂版』

城山町教育委員会／編 城山町教育委員会 2001 (K1-29/城山)

・『せきのかわ 第41号～』

“久保沢の昔、むかし、少し昔”を語る会 2012 (K1-21/城山)

・『ふじ乃町の馬』

藤野町文化財保護委員会／編 藤野町教育委員会 1991 (K1-38/藤野)

・『横浜ウマ物語』

秋永 和彦／著 馬の博物館／編 神奈川新聞社 2004 (K2-78)

・『根岸の森の物語』

馬の博物館／編 神奈川新聞社 1995 (K2-78)

〈参考にしたホームページ〉

・レファレンス協同データベース（上溝（現陽光台）に昭和初期の頃に草競馬場があった・・・）

http://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000153877

・公益財団法人馬事文化財団（根岸競馬場の歴史）

<http://www.bajibunka.jrao.ne.jp/uma/about.html>

・相模原市市民カメラマン（山肌駆ける馬）

<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/camera/report/26202/026517.html>

第48号 平成27年6月

発行：相模原市立橋本図書館

でんわ：042-770-6600 ファックス：042-770-6601

ホームページ

<http://www.lib.sagamihara.kanagawa.jp/index.html>

